

校長室だより

# 春日 (しゅんじつ)

校長 清武 直人

## 花さか先生

♪♪

枯れ木に花を咲かせましょう  
 レトニア サルビア ジーニア  
 花壇に花を咲かせましょう  
 レトニア サルビア ジーニア

♪

♪

今年の学校の玄関前の花壇の花は、鼻歌でも歌ってみたくなるほど美しい。淡い青とピンクのレトニア。黄色とオレンジのジーニア。真っ赤なサルビアに、深い海の色したブルーサルビア。

この花は、本校の宮崎先生が春の終わり頃に植えてくださった花です。

5月から7月にかけて日照りが続いた日には、土曜日も日曜日も学校に来て花の水やりをしてくださいました。夏休みには

「今花を摘んでおくと、秋には、花の色が深まるんです」

と言って、花をはさみで刈り込んでくださいました。

秋の初めに美しく咲きほこることを信じて育てられた花は、宮崎先生の心に、見事に応えてくれました。

## ピグマリオン効果

ギリシャ神話のお話です。

キプロス島に住む王ピグマリオンは、大理石でつくられた女性の像に恋をしました。

「あ～あ、あなたが人間であったならば・・。」

と毎日思い続けていました。

すると、ある日何ということか、その願いが叶って、彫像が本物の人間に生まれ変わったのです。

このギリシャ神話をもじって、期待することによって効果が上がることを「ピグマリオン効果」と言うようになりました。

この子はきっとひまわりのような花を咲かせるに違いない。この子はきっとスマイルのような花を咲かせるに違いないと、思う周りの大人の心が子どもを育てるのです。

期待されない花は、つぼみを開くことができません。



ざくろざか あだうち  
**柘榴坂の仇討(映画から)**

「皿をもう1枚持ってきてきなさい」  
 「これは、お前の分だ」

彦根藩士志村金吾は、桜田門で暗殺された主君大老井伊直弼の仇討ちを命じられ、13年間敵を探し続けた。そして、時代は江戸から明治へと移っていった。

敵を追う金吾の生活は、妻が針仕事と小料理屋の手伝いでまかっていた。二人の生活は貧しかった。

ある日、妻は小料理屋の主人から尾頭付きの魚を一匹もらってきた。妻は、皿

に載せて

「あなたが食べてください」と金吾のお膳に置いた。

金吾は軽く頷き、妻にもう一枚皿をもって来るように言い、魚の半身をむしると、もう一枚の皿に載せて言った。

「これはお前の分だ。食べなさい。」

貧しさの中であってこそ見える夫婦の誠の愛。ああ、涙が・・・。



映画館で1杯300円のコーヒー2杯買うことを惜しんだ私は、涙をぬぐいながら小さな声で妻にささやいた。

「半分飲んでいいよ。」

(すぐにその気になってしまうお調子者です。すみません!)